

## アジアの LNG スポット価格、需給タイト化で 15 ドル台へ高騰

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
専務理事 首席研究員  
小山 堅

アジアの LNG スポット価格が高騰している。2021 年初の日本を含む北東アジアでの寒波襲来で LNG 需要が急増、需給が一気に逼迫して瞬間風速的に 100 万 BTU 当たり 30 ドルを突破する異常な価格高騰となったが、寒波の終息後に市場は落ち着き、2 月末には 5 ドル台に戻っていた。しかし、その後、4 月以降じりじりと値を上げ、5 月に 10 ドル台、6 月に 12 ドル台、7 月に 14 ドル台を記録、ついに 7 月末には 15 ドル超えを記録した。アジアのスポット LNG 価格が 15 ドル前後となるのは、2011 年から 2014 年頃にかけての価格高騰期以来である。当時は日本にとって震災・福島事故後で LNG 需要が急増し、LNG 価格高騰と相まって、LNG 調達問題が喫緊の重要課題であった。今、再び LNG スポット価格が大きく高騰することで LNG 調達に関する課題が大きな関心事となっている。

2021 年に入って、LNG だけでなく、燃料価格全般が上昇し高止まりする傾向が顕在化している。原油価格はブレントも WTI も 70 ドル台での推移となり、一時期は年後半にかけてのさらなる高騰の可能性が指摘される状況となった。OPEC プラスの生産調整もあり、その後も 70 ドル台を維持しているが、今後も予断は許されない状況である。石炭価格もアジアでの堅調な需要や中国での国内生産停滞等の要因で、発電用豪州炭スポット価格がトン当たり 130 ドルを超える状況となった。しかしこうした中でも上述した LNG スポット価格の高騰は目を引く。年初のスポット価格 30 ドル突破は、原油換算ではバレル当たり約 200 ドルという異常な高価格であり、7 月末のスポット価格 15 ドルでも原油換算約 90 ドルと、原油相場をはるかに上回る高値圏である。この価格上昇の背景には何があるのか。

その背景要因としては幾つか重要なポイントを指摘できる。最も基本的な原因として、アジアでの旺盛な需要による需給タイト化というファンダメンタル要因の影響が大きい。また、ここまでアジアの LNG スポット価格上昇にのみ言及してきたが、実は LNG の世界的フローの流動性が高まる中で、世界の天然ガス・LNG 価格の連動性が大きく高まっている、という市場の構造的な特徴も重要な要因となっている。特にアジア市場との間で LNG の需給調整が発生する欧州市場において、天然ガス需給がタイト化し、価格が上昇していることが重要なポイントである。以下、まずはアジア市場、次いで欧州市場の状況を考察する。

アジアでは LNG 需要が堅調な増加を示している。その象徴的な例が中国における LNG 需要の急拡大である。小論「国際エネルギー情勢を見る目」の 542 号で述べた通り、2021 年 1-6 月期の中国の LNG 輸入は前年同期比で 830 万トン (27%) 増加し、3978 万トンに達した。このままのペースで行けば、2021 年の通年ベースで中国が世界最大の LNG 輸入国になることは確実である。なお、日本の LNG 輸入も同 250 万トン (7%) 増加しており、堅調な需要拡大を見せている。7 月以降も猛暑による気温上昇で冷房用電力需要が増加、LNG 需要も堅調となっている。需要と輸入の増加傾向は韓国・台湾でも同様であり、世界の LNG 輸入の中心である北東アジア市場全体で LNG 需要が大きく伸びている。一方、堅調な LNG 需要の増加に対して、新規 LNG 供給の立ち上がりが十分でなく限界的供給増が限られている。夏場の需要拡大と共に今冬の電力需要対応も視野に入れた LNG 調達の動向がアジアの LNG 需給を引き締め、現在の価格上昇をもたらしている、とも言えるだろう。

欧州市場の需給状況も厳しい。欧州では今年の春先、例年よりも低い気温が続き、結果としてガス需要が堅調であった。需要が堅調に推移する状況下、欧州のガス貯蔵（在庫）水準は本年 3 月頃から過去 5 年平均を下回る状況が続き、6 月には過去 5 年平均より 1 割強も低在庫状況となっている。供給面で見ると、アジアの LNG 需要が旺盛で LNG 供給がアジアに流れていること、ロシアからのパイプラインによる欧州向けガス供給が拡大せず低位に止まっていること等が重要な影響要因となっている。特に、ロシアからのガス供給に関してはウクライナ経由の供給が低位であり、この背景には、①ロシアとウクライナの対立関係の存在で経由地であるウクライナのガス通過料収入を抑制するロシアの戦略的意図、②ロシアにとって重要市場である欧州のガス価格維持、③そして現在ロシアと米欧の間で重要な懸案事項となっている Nord Stream 2 パイプライン計画を戦略的に推進すること、等があると考えられる。こうして、欧州市場での低在庫状況の下、ガス需給のタイト化が持続し、アジアの LNG スポット価格水準と連動した高価格状況となっているのである。

ここで、もう一つ欧州市場では興味深い問題が浮上している。それは、最近の欧州市場における CO2 価格高騰の影響である。欧州での排出権取引市場、EUETS での CO2 価格は市場開設から相当の期間、低迷が続いていたが、2018 年以降上昇基調に入り、本年 5 月以降はトン当たり 50 ユーロ超の水準での推移となっている。折しも前述の通り石炭価格も上昇し、CO2 価格の上昇と共に、天然ガス価格に一定の影響を及ぼしているのではないかと議論が起きている。CO2 価格が上昇し、石炭価格が上昇したから、それをもってガス価格が上昇する、といった単純な関係ではないものの、欧州市場の発電部門等でガスと石炭が競合関係にある以上、CO2 価格と石炭価格が上昇していれば、競合する天然ガス価格の「上限」が上方にシフトする可能性はある。この時、前述した通り、ガスそのものの需給がタイト化していれば、ガス価格の上昇を支える要因になりうる可能性が考えられよう。

こうして、世界のガス・LNG 市場の連動性が高まる中、需給要因が主導して、価格上昇現象が現在まで持続するに至っている。ただし、LNG スポット価格の高騰は LNG 市場の需給を反映したものだが、スポット価格が LNG 調達価格全体に与える影響は限定されたものでもある。アジアの LNG 調達の中心である長期契約 LNG の価格は現時点でも原油価格連動方式によるものが大宗だからである。また、近年急速に拡大する米国からの LNG 供給も米国取引市場、Henry Hub の価格に連動し、そこに液化・輸送費用を加算する方式となっている。原油価格上昇で長期契約の原油連動方式の LNG 価格も上昇しているが、スポット価格ほどではない。こうして、アジア LNG 市場では、原油価格、LNG スポット価格、Henry Hub 価格に影響を受ける LNG 供給が共存し、全体としての価格上昇基調の中で、LNG 間で複雑な競合関係が存在するに至っている。LNG 市場の産消双方の関係者にとって、現在の LNG 価格上昇の影響をどう見るか、LNG 価格決定方式の在り方の今後をどう考えるか、LNG が今後も日本で、アジアで選択され続け、重要な役割を果たし続けるに何が必要なのか、現在の市場状況を睨みながら将来の戦略を練っていく必要がある。

LNG がアジアにおいて選択され続けるエネルギーとなり、アジアのエネルギー安全保障・安定供給や気候変動を始めとする環境問題の解決に貢献する重要な役割を果たすためには、LNG そのものの安定供給とそれぞれの市場の状況に応じた合理的で Affordable な価格での供給実現が重要となる。また需要増大に対応した供給能力の適切な拡大も必要であり、そのための投資確保も不可避の課題である。アジアでの脱炭素化のトランジションにおいて、ガス・LNG は重要な役割を果たすことが期待されている。その期待に応えるため、克服すべき課題は多い。現在の LNG 市場で展開する新たな現実とそれを踏まえた将来見通しを基に、日本を含めた関係者全てが叡智を結集して対応していくことが求められよう。

以上